

『ひっつき虫』は何故ひっ付くのか？ Part2

『センダングサ』の仲間には小さなカエリの出た鋸のようになっている。これが衣服に刺さってひっつくわけですね。この種も帰化植物ですが、種類も多く、亜種（変種）も多いようです。



素晴らしいほどの逆向きの棘がピッシリと生えていて、衣服に刺さると簡単には抜けない仕組みになっています



『コセンダングサ』



『アメリカセンダングサ』

今までに上げた4種とは全く異なり、粘着液を分泌して、動物や人間の衣服にひっつくのが、『チヂミザサ』の仲間である。イネ科チヂミザサ属の一年草で、葉の形がザサに似ていて、やや縮んだようなしわがあることからこの名がある



このタイプのひっつき虫が最も厄介なヤツらです。群生地に不用意に入り込んでしまうと、こういうことになってしまう。手で払って取ろうとしても、小穂の部分が取れて粘液部分の長い毛が残ってしまって大変なことになります。これが容易には取れません。



粘液にはこういう小さな羽虫までもくっついてしまうわけである
これを初めて見た時には、食虫植物かと思ってしまった